

「膵・胆道の内視鏡検査」

〔編集〕 竹 本 忠 良
春日井 達 造

独協医科大学教授

田 島 芳 雄

内視鏡的逆行性胆道・膵管造影法 ERCP (Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography) を中心とする膵・胆道の内視鏡検査は、膵・胆道疾患の診断にきわめて重要であり、広く普及して日常ルーチンに行われている。このような時期に、斯界の権威である竹本忠良・春日井達造両先生の編集された本書が出版されたことは、非常に意義深く、まことに時宜を得たものというべきである。

本書には、ERCPの適応・禁忌・手技・合併症・読影などを中心に、膵・胆道の内視鏡検査に関する重要事項のすべてが、それぞれの分野の専門家によって、詳細にしかも分かりやすく解説されている。

さらに、内視鏡的膵液採取法、経十二指腸膵・胆道ファイバースコープ検査法および内視鏡的乳頭括約筋切開術などの新しい検査法や治療法についての知見も詳しく述べられており、この方面のエンサイクロペディアの感がある。

また、従来の成書にはみられぬ特徴として、膵管の形態的变化と膵機

能の有力な検査法である P-S 試験との相関、対比上の問題点が論じられていることは、われわれ臨床医の大きな関心事である。

疾患編では、鮮明な ERCP 写真と豊富な自験例を呈示して、主な膵・胆道疾患の鑑別診断上の要点が具体的に解説されており、実地臨床上大いに役立つ。

膵・胆道の内視鏡検査をこれから始めようと思う人、日常膵・胆道疾患の診療を行っている人、さらに膵・胆道疾患のエキスパートになろうとする人のすべてに、ぜひ座右に備えるべき良書として推薦する。(了)

本書の特色

1) 膵・胆道疾患の診断に有力な検査法である ERCP (内視鏡的逆行性胆道・膵管造影) を中心に、その検査手技、他の機能検査法などとの比較、読影・診断上の諸問題など ERCP のすべてを詳述。

2) 内視鏡手技を応用した膵液採取法、乳頭括約筋切開術など最新の知見を盛り込む。

3) 豊富な症例、鮮明な X 線、内視

鏡所見を呈示して具体的に解説。

主要内容

膵・胆道内視鏡検査の歴史と現況
十二指腸ファイバースコープの
挿入法と乳頭部観察
マノメーターを用いた内視鏡的
逆行性胆道・膵管造影法の手
技
内視鏡的逆行性胆道・膵管造影
法の適応と禁忌
内視鏡的逆行性胆道・膵管造影
法の合併症
内視鏡的逆行性膵管造影と膵機
能検査
内視鏡的膵液採取法
内視鏡的乳頭括約筋切開術
経十二指腸鏡的膵胆道・ファイ
バースコープの検査法
胆道鏡
内視鏡的逆行性胆道・膵管造影
における正常像
内視鏡的逆行性胆道・膵管造影
における異常像

B 5 頁 232 図 44 写真 208 原色図
72, 1977 年 ¥ 16,000 円 300
医学書院 刊